

# 先進校に学ぶキャリア教育の実践

## CASE 2

### 静岡県立 湖西高校

# 研究指定を機にインターンシップ導入。 長く続けられる体制を目指す

取材・文／永井ミカ



#### ≫実践ノウハウ

- 各教員が得意分野を活かして主導する
- 多くの教員が少ない負担で参加できる仕組みにする
- 生徒にプレゼンテーションをさせて自信をつけさせる

静岡県立湖西高校は、愛知県との県境に近い浜名湖沿岸の新興住宅地に立つ全日制普通科高校。地元または隣の愛知県に製造業を中心とした企業が多く、1979年の創立以来、就職率は例年ほぼ100%を保ってきた。進路状況は進学と就職が約半数ずつである。

近年、クラス数の減少と入学者の学力差に悩み学校改革に着手。生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する目的で、2006年度よりコース制を導入した。2学年から、大学・短大等進学希望者は進学文系コースか進学理系コースを選択。就職・専門学校進学希望者は「キャリアコース」の工業系か商業系を選択し、情報関係の科目を中心に工業・商業の専門科目も学ぶ制度になっている。

07年度からは文部科学省の研究指定校となり、キャリア教育を順次導入している。研究指定期間は09年度までで終わったが、今年度以降も引き続きキャリア教育に力を入れていく方針だ。

### コミュニケーション能力や 情報モラルを習得する総合学習

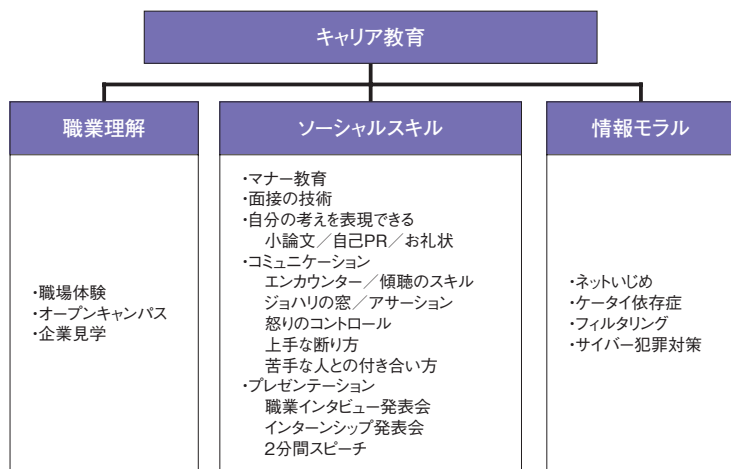
研究指定校となりキャリア教育に着手した湖西高校は、初年度を研究の年とし、学年末に希望者16人のインターンシップをスタートさせた。08年度からは研究成果を活かし、全校を挙げて、キャリア教育の視点で組み立てた総合的な学習

の時間に取り組んでいる。

インターンシップは1・2学年の希望者が3日間体験。生徒の内発的な動機を進路意識向上につなげるために、希望者が少ない職場であっても、希望に沿った事業所等に依頼するのが特徴だ。

総合的な学習の時間については、初年度は「インターンシップ・コミュニケーション・情報モラル」の3つの柱を立てバランスよく時間配分されるよう体系的に年間計画を組み立てた。現在、3つの柱は「職業理解・ソーシャルスキル・情報モラル」(図1)となり、生徒へのアンケートもとりながら、改良と教材の新規開発を行っている。

図1 湖西高校のキャリア教育 (09年度、教員向け資料より)



>> School Data

普通科 / 1979年創立  
 生徒数 / 554人(男子299人・女子255人)  
 進路状況(2009年度実績) / 大学 19.0%・短大 10.9%・  
 専門学校 14.9%・就職 52.9%・その他 2.3%  
 静岡県湖西市鷺津1510-2  
 TEL 053-575-0511  
 URL http://www.shizuoka-c.ed.jp/kosai-h/

Process

立ち上げのプロセス

## 環境変化のなかで 自校の使命を再確認

07年度、キャリア教育の研究開始とともに進路課長となった宇佐美清光先生は、これを以前から考えていたインターンシップ導入のチャンスととらえた。同校は就職率は悪くないものの、早期離職してしまう者もおり職業観の育成が急務であると考えていたからだ。また「とにかく生徒を外に出して刺激を与えたい」という考えもあった。研究指定校となつてからまとまった準備期間もなかったため、初年度はまず小規模でもインターンシップを実現させようと動く。そして、求人等を通じてつながりのあった4事業所に依頼し、1・2学年の希望者16人の3日間のインターンシップが実現した。

一方で、総合的な学習の時間における継続的なキャリア教育の準備も始まった。各教科3コマを割り振る単発的な授業構成を全面的にリニューアル。新カリキュラム作りの中心人物となつたのは、「総合的な学習の時間」実施委員会の委員長、池田敦先生だ。池田先生は同校で教育相談室を立ち上げ、同時に教科情報の担当経験者として情報教育の必要性を唱えていたが、「教育相談の手法を積極的に広めたい。持っている知識を生徒に還元したい」と考えていた。宇佐美先生と同様に、生徒

が現代社会で生活するために必要と思う授業を、実践するチャンスととらえたのである。

これまで培った知識も活かしながら情報収集するなかで、方向性を見いだすきっかけとなったのは、「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書」(文部科学省)と「7つの力」を育てるキャリア教育(諸富祥彦著、図書文化)である。とくに「7つの力」(図2)については、カリキュラム作成や、ほかの先生方に理解を求める際の資料とした。そのほか、「キャリアプランニング」の授業を行う御殿場高校など先進校の視察、既存の資料やワークシートをアレンジしてオリジナル教材を作るなどの準備を進めた。そして、研究指定の2年目、従来からLHRで行っていた進路学習や学校行事としての講演会なども組み込みながら、新しい総合的な学習の時間が立ち上がったのである。

図2 キャリア教育で育てたい7つの力 (諸富祥彦氏提言)

- 出合いに生き方を学ぶ力
- 夢見る力
- 自分を見つめ、選択する力
- コミュニケーション能力
- 達成する力
- 七転び八起き力
- 社会や人に貢献することに喜びを感じる力

Close up ①

インターンシップ

## 生徒の希望を取り入れ 多くの教員に参加してもらう

インターンシップについて生徒に事前調査を行った結果、中学校では主にサービス業で実施されていることがわかった。一方、同校の卒業生の主な就職先は製造業。そこで、初年度は、卒業生の多い製造業の事業所4カ所に依頼し受け入れてもらった。事前に社員を招き、1・2年生全員を対象とした職業講話を実施。その後、授業に支障のない3月に希望者16人がインターンシップに参加。後日、1・2年生全員の前で体験発表をした。「無理なく実施したかったので希望者だけですが、同級生が体験発表する姿を見るのは、

図3 インターンシップの実施状況

年度	対象学年	事業所数	生徒数	時期・日数
2007	1・2年生	4	16	3月 学年末テスト後の3日間
2008	2年生	13	36	7月 1学期末テスト後の3日間
	1年生	16	35	3月 学年末テスト後の3日間
2009	1・2年生	24	57	3月 学年末テスト後の3日間



教諭  
中村都史彦先生



主幹教諭  
池田 敦先生



進路課長  
宇佐美清光先生

ほかの生徒たちにとっても刺激があるはず」と宇佐美先生。予想どおり、翌年、希望者は大幅に増えた(図3)。

翌年からは、生徒の希望をとり、サービスマネジメントや公共機関(図書館、市役所、保育所、博物館等)などでも実施。生徒は自分の希望を受け入れてくれたインターン先に行くことで、取り組みが能動的になり、「生徒の希望」に沿っての実施であることで、先生方も協力的になってくれるという。

また、この年からは1事業所に1人の担当教員をつけた。担当教員の仕事は事前打ち合わせや生徒の引率等。1人の負担はあまり重くない一方で、1・2学年の教員のほとんどが担当を持ったため、教員のキャリア教育への関心を高める効果があった。加えて、協力先が広がり、これまで縁のなかった事業所とのつながりも持つことができた。

「インターンシップの形骸化は避けたい。生徒が本当に行きたいところへ行くことで、型にはまっただけでなく、流動的で緊張感のあるインターンシップになると思います」と宇佐美先生。これからも、「ぜひ行きたい」という生徒と事業所を結びつけていきたい考えだ。

Close up ② 総合的な学習の時間

ワークシートやDVDで  
授業のレベルを一定水準に

「総合的な学習の時間」実施委員会では、各学

図4 総合的な学習の時間の実施内容と生徒による評価(抜粋)

評価A=とてもよかった B=よかった C=あまりよくなかった D=よくなかった (単位=人)

実施月	テーマ	内容	A	B	C	D	
1学年	4月	キャリアデザイン	「自分を知る」1 高校生活の目標設定	26	114	44	1
	6月	キャリアデザイン	「自分を知る」2 エゴグラム	43	108	32	1
	6月	外部講師活用	マナー講座	39	105	37	1
	7月	進路指導	KJ法による職業興味探索	23	100	57	4
	9月	夏期課題の発表	職業インタビュー クラス発表	32	86	58	9
	9月	こころの講演会	助産師の方の講演会	38	92	49	3
	10月	情報モラル	ケータイ依存について	60	98	25	3
	11月	キャリアデザイン	アサーション1 「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」	43	87	49	6
	1月	キャリアデザイン	働くこととお金	41	108	33	2
	2月	外部講師活用	社会の中で生きる テーマ/国際理解	50	85	44	3
2学年	4月	情報モラル	ケータイのフィルタリングについて(DVD)	25	118	21	2
	6月	人間関係を耕す1	怒りのコントロール	36	101	26	3
	9月	職業理解1・進学先研究	職業インタビュー・オープンキャンパス参加報告会	59	81	20	4
	9月	人間関係を耕す2	上手な断り方	39	99	22	4
	11月	情報活用	ワーク「いろいろな人が住むマンション」	41	99	21	4
	1月	進路意識の啓発	今自分に必要なこと(目標を立てる)	37	101	25	2
	1月	自己理解(外部講師)	自分らしさって何だろう?	48	95	18	4
	2月	進路講話1	合格体験発表会	90	59	10	2
	2月	進路講話2	就職講話(卒業生が各HRで話す)	100	55	8	1
	3学年	5月	(進学者)	自己PR(自分の長所・短所、友人から見た自分像)	21	44	12
外部講師によるオープンキャンパスガイダンス		33		36	8	2	
面接対策プリントの作成		32		37	7	2	
外部講師によるマナープラン講座		18		39	17	3	
外部講師によるビジネスマナー講座		17		48	7	2	
1月		(就職者)	外部講師による講演「自分らしさって何だろう?」	44	26	3	2
5月			自己PR(自分の長所・短所、友人から見た自分像)	27	55	9	2
9月			面接対策プリントの作成	32	45	9	2
10月			就職活動を振り返って	15	48	19	4
11月			外部講師によるマナープラン講座	17	42	16	10
1月	外部講師によるビジネスマナー講座	18	48	17	2		
1月	外部講師による「自分らしさって何だろう?」	40	38	8	1		

年2人の教員が学年ごとの計画を立てている。年間計画を立てる際には、委員会のなかで情報を共有しながら、図2の7つの力や、文部科学省によるキャリア発達に関わる4つの能力(人間関係形成・情報活用・将来設計・意志決定能力)がバランスよく身につくよう配慮(図4)。09年に1学年を担当した中村都史彦先生は、心と体についての理解と職業のイメージを広げることをテーマに計画を立てたという。

実際に授業をするのは各クラスの副担任が中心だが、視察校の授業ビデオなどを使った事前研修をはじめとし、誰でも一定レベルの授業ができるように工夫をしている。生徒に必ず共通ワークシートを使った作業をさせる(図5)、情報スキルのように最新の知識が必要な授業ではテレビ番組を録画したDVDを教材として使う、マナー等の分野では外部の人材や卒業生を招いて語ってもらおうといった工夫だ。



ほかの学校や企業、地域などとの連携を考慮し、キャリア教育のリーフレットを作成・配布するなど広報活動に努めている。

各授業については生徒に振り返りアンケートをとり(図4)、内容や実施時期について継続的に見直しを図っている。

## 社会で生きるために 必要なことを学んでほしい

池田先生は「総合学習で、生きるためのステップを教えた」という。情報モラルの授業を充実させているのもそのためだ。例えば、ケータイ依存の授業で伝えたいのは、依存症の恐ろしさとともに、人は一人ひとり違うはずなのに互いに「同じ」であろうとすることに無理があるということだ。

どんな授業でも、ワークシートに感想や意見を書かせる。時にはグループやクラス内で発表をさせる。そこにはプレゼンテーションのスキルを身につけさせる狙いもある。一人の考えは人それぞれ。人と違っていてもいいんだという強さを身につけて社会に出ていってほしい」という願いも込められている。

取り組みを始めて3年。先生方は、指導内容や方法が確立できたわけではなく、総合学習の事前研修などまだまだ充実させていく必要を感じているという。また、キャリア教育の視点を取り入れた各教科の授業実践にも取り組み始めたが、研究指定の期間にまともな形にならなかつたという反省もあるようだ。

けれども、できることから無理なく始め、教員

図5 ケータイ依存についての教員向け資料とワークシート

**担任用資料**

◆子どもの「ケータイ依存」「メール依存」の本質の原因とは  
「ケータイ依存」「メール依存」の原因は、子どもたち特有の心理に起因すると考えられています。つまりグループ内の「濃密なコミュニケーション」を保ちたいという子どもたちの気持ちを「ケータイ」が補填に働いているのです。  
しかも、メールによる「濃密なコミュニケーション」は、実に容易に得られます。そもそも人は本来一人一人誰とも「遠く」に、互いに「同じ」であらうとすることに無理があるからです。結局、互いの「違い」が明らかになると、その関係は修復不可能になってしまいます。さらに、「違う」者に対する「いじめ」や「同じ」であるとするストレスによる「誇う病」などのこの病を引き起こす危険性も高いのです。

◆対策は、家族や多くの子どもと接し、互いの「違い」を認め合うところから・・・  
「ケータイ世界の子どもたち」の著者、藤川大祐さんは、対策として次のように述べています。  
求められるのは「違う、だからいい」という発想です。互いの違いを肯定するのです。学校の中で異なる異なる者どうしが友達になことや、子どもが親や教師以外の大人と接する機会を持つことが、一見ケータイとは全く関係がないように見えても、実は大きく関係しているのです。  
付け加えて言えば、家族関係もまた、「同調型」ではなく、「対立型」でもない、お互いを「違う」、だから、お互いを認め合う関係が大事なのではないで、  
その他の大人たちとの関係が壊れるはずで

**ケータイ依存症に陥らないために**

「ケータイ依存症」という言葉を聞いたことがありますか。近年、携帯電話の普及に伴って若者の間に急速に広がっている症状です。タバコやお酒などと同じように「依存症」というのは本人が自覚するのが難しく、また治すのも困難なものです。あなたは「ケータイ依存症」に陥っていませんか？

**1. 依存症チェックしよう**

質問に対して「とてもはまる」場合は3、「ややあてはまる」場合は2、「あまりあてはまらない」場合は1、「全くあてはまらない」場合は0と記入して下さい。

1. 時刻は携帯で確認する。	
2. トイレにも携帯を持っていく。	
3. 周りの人がどんな携帯を持っているの気になる。	
4. 有料サイトをよく利用する。週に1回以上。	
5. 授業中や寝かしている時も携帯が気になる。	
6. 用もないのに「今何してる？」などのメールを送ってしまふ。	
7. 携帯がそばにないと不安でどうしようもない。	
8. 友達と人と会うよりメールやチャット、BBSのやりとりの方が気楽。	
9. 携帯に自信がないと仲間はずれにされているのかと、だんだん不安になってくる。	
10. 携帯を預けしめて寝ることがある。	
11. メールを送信後に、返信が気になり何度も携帯電話をチェックする。	
12. 「ケータイいじり過ぎじゃない？」と友達に言われたことがある。	
13. 自分のメールと比べて、相手のメールの文章が少ないと不安になる。	
14. 人と会話中でもメールをすることがある。	
15. 食事しながらでもメールをすることがある。	
16. メールを打つスピードが速いと思う。	
17. 一人になると必ず携帯をいじってしまう。	
18. 携帯電話の電池が切れそうになる不安になる。	
19. 携帯に書く文章にも漢字やひらがなを入れていることがある。	
20. 会ったことのないメールだけの友達が増える。	
21. 携帯を忘れて外出した場合、気があっても携帯を取りに戻る。	
22. お風呂に入っている時も使える完全防水の携帯が欲しい。	

合計

**診断線ごちら**

49点～66点 依存度B ……もう自分自身を携帯電話に改造した方が早いでしょう。  
32点～48点 依存度A ……どっぷりつかっている状態です。ヤバイかも！  
17点～31点 依存度B ……日常生活に害がない程度です。でも油断は禁物。  
0点～16点 依存度C ……今のところ依存症の心配はありません。

**学校裏サイト**

2005年から増え始めた学校裏サイトは、ある特定の学校サイトには、全国規模の他、学校別、学級別、学年別の掲示板やアクセスできないものがあつて、(PCからアクセスしてもIPアドレスはとんがりますが、在校生や卒業生が勝手に立ち上げているだけで、学校裏サイトは15000ある学校裏サイトでは、プライバシーは存在しませんが、匿名でどんな書き込みも、学校に届くことはありません。かっこいい人ランゲン、キミがラブをアップするなどのケースが目立ちます。また、人の診断書を書き込むケースもあり、いじりがあります。いわば、20代の学校版とも書けます。携帯電話のPCブラウザ機能(PCサイト)を携帯専用ブラウザの環境となっています。

の負担を少なくする工夫をしているため、長く続けられる取り組みとなりそう。池田先生は「真似でも何でもいいからまずは始めること。意見を書く、述べるといった点で、生徒は確実に成長しています」という。宇佐美先生は、「ノルマを課して無理にインテリゲンシッに行かせるのではなく、これをきっかけに生徒の進路意識を高めることが、今やるべきこと。とにかくやってよかったです」という。生徒によるキャリア教育の評価は全体的に高く、意欲的に取り組んでいる様子が見ええる。また、3年間の研究取り組みを経て、教員にもキャリア教育の重要性が浸透し始めている。

REPORT

### ■ケータイ依存の授業を受けての感想

○なんで私はすぐ返信するのに、相手はすぐに返してくれないのか？不安になることもありました。でも、友達に「別にメールがすべてでなくてもいいから、依存しすぎじゃない？」と言われて、なんだか「はっ」となった気がして、それからあまり気にしないようになりました。今後は、実際に会って話すことを大切にしたいと思いました。

○私は自分がやりたいことを先にやって、それからメールを少しずつやりたいと思います。ケータイがなくてももしっかり生きられるようにしたいです。

○ケータイ依存症は怖いと思いました。自分は依存症だと気づいていました(笑)。なんかさらに不安になったし、悲しくなりました。ずっといじってたりするのは異常だと思った。将来が不安になった。

○ケータイ依存症なんだってということがよくわかった。みんなやっていることは同じだから、そんなことないって思っていたけど、けっこう重症ってことがわかった。これからは、ケータイを気にしないで生活できるように努力していきたい。